

第 24 回日韓海峡沿岸県市道交流知事会議【自由討論】

日時 2015 年 10 月 12 日（月）15:45～16:50

会場 唐津シーサイドホテル 西館 1 階 虹 B

自由討論

（山口） それでは、各地域からお話を頂きました。ここから自由討論とさせていただきたいと思います。まず、いろいろ発表がありました。ご意見や質問のある方はおられますか。

はい、お願いします。

（李） 8 人の知事の方々からさまざまなご提案を興味津々に拝聴しました。韓国では、釜山市長からの提案が具体的で、今、行っていることをもっと拡大していくことですから、実現可能性は高いのではないかと考えています。日本側の提案としては、佐賀県の U-18 のサッカーの提案はかなり興味深いと思います。

そういう具体性のある提案を中心にして、実務的により焦点を絞っていけば、交流は実現できるのではないかと考えています。

（山口） そうですね。釜山からありますか。できるものから可能性を探りながら、これから調整していこうという話がありました。

（徐） 釜山市の立場から申し上げますと、現在、福岡市を中心にして交流を展開しているのですが、日本の都市とそれ以外の都市と行っているスポーツ行事があります。私はアリランヨットレースや、青少年のスポーツ交流、生活スポーツの交流などをより拡大していくことを現実的に提案させていただきましたが、福岡の市長さまとも協議をして、オルタナティブにもう一つの道として、われわれの 8 の県市道が違う枠組みをつくっていくことができるのではないかと考えています。

最近、生活スポーツであるピンポン、バドミントン、さまざまなそういうアプローチできるような種目がありますが、そのようなもので交流が少しずつ広がっているのです。そういうものを、一つの都市が一つの種目を中心にして、分散して 8 の全ての県市道が開催すると、同時に 8 種目の交流ができることとなりますので、一気に両国間の交流が深まるきっかけになるのではないかと考えています。

佐賀県の知事様が U-18 の青少年サッカー大会などの交流をおっしゃいましたが、現実的に非常に実現性の高いものだと思います。あまりコストを掛けずに、大きな効果が出るようなものではないかと思っています。そのようなものから一つずつ進めていけば、交流の現実性が高まるのではないかと考えています。

特に私が提案させていただいたのは、クルーズ船です。クルーズ船を活用して、8 の県市道の独特の商品を開発したり、PR 活動を一緒にする、そういうものも実務的に議論したらいいのではないかと考えています。

それから、私から質問させていただきたいことがあります。2020 年の東京オリンピッ

ク・パラリンピックですが、それを開催できるのは非常にお祝い申し上げたいと思うのですが、オリンピックは東京だけの開催になるのですか。あるいは佐賀県、福岡、長崎など、種目によっては全国的に展開されて競技が行われるのか。そのようなものは今、議論中でほぼ確定されているのか。そのようなものを質問させていただきたいと思います。

(山口) 東京オリンピック・パラリンピックについては、基本的には首都圏で行われると聞いています。その中で、東京の舛添知事とも話をする機会が何度かあったのですが、東京だけで終わらせることはなくて、その効果が日本全国に表れるようなオリンピックにしたいのだという話を頂いています。

そういう意味で、特に事前キャンプ等については日本全国でこれから可能性が出てくると思いますし、これは日本にとどまらずに、近隣の韓国や中国においてもチャンスがあると思います。われわれもこれまで中国や韓国で競技大会があるときには、事前キャンプの誘致は佐賀県もやってきましたし、その意味での効果は近隣にも出てくるのかなと思っています。

それと、問題のスポーツの分野なのですが、佐賀県が提案したのは、8 県市道にサッカーチームがあるので、一度それはまとまりやすいのではないかとということで提案させていただきました。実はそれ以外に何があるだろうかと考えたときに、「それぞれ、濃淡や事情が違っていそうだね」という話があったのです。ですから、これをまず 8 県で始めれば、できるものが幾つか出てくると思うのです。特に今日はヨットのお話もだいぶ出てきましたし、ヨットはいけるかもしれないなと思いましたが、これもそれぞれの事情があるかもしれないですね。

そして、スポーツではありませんが、クルーズ船も日本の四つでも事情がかなり違います。海峡という意味では非常に素晴らしい夢のあるプランだと思いますが、何ができるのかというアクションプランにしたときには、それぞれまた考え方も出てくるかと思いますが、相談する内容とするととても将来性のあるビジョンだと思いますので、これは引き続きやっていけばどうかなと思います。

はい、お願いします。

(徐) 申し訳ないのですが、追加説明をさせていただきたいのですが。

先ほどサッカーチームのことをおっしゃったときに、その地域を象徴する代表のサッカーチーム、プロサッカーよりは、青少年のレベル、学生レベルのスポーツの交流などを望んでいるとおっしゃったのですが、私がオリンピックに関して質問をさせていただいたのは、東京オリンピックを開催すると、日本の他の地域でも直接・間接的にさまざまな影響があるだろうし、キャンプや合宿など、韓国などにも影響するさまざまなイベントもあるのではないかと思います。

最近の問題は、オリンピックを開催すると非常に高いコストが掛かります。他の国もそうなのですが、経済的な利益があまりないので、二つの都市が分散開催する、共催で開催する。そのようなものが、オリンピックの IOC の中でも許されるということが決定されたと聞いています。種目自体を、経済性の高いオリンピックを運営するためには、まず既存の施設を活用すれば、日本の中の他の地域が参加できるようにしましょうという議論がさ

れているのかどうかを知りたくて、ご質問をさせていただいたところです。

(山口) はい、分かりました。

基本的におおむね、会場については、もう熟度がついていると私は聞いています。その中でどうしても対応できないものについては、これから可能性はあるのかもしれませんが、分散開催については、状況的になかなか厳しいだろうなというのが私の感覚です。よろしいでしょうか。

はい、小川知事。

(小川) ありがとうございます。

八つの県市道から提案があったわけですが、八つの県市道でスポーツ交流を進めていき、それを具体的に検討していくのは大賛成です。そのときに、まず枠組みですが、釜山市長からお話があり、幾つかの具体的な提案がありました。

その中で、福岡市と姉妹都市の関係で、その枠組みで事業されているものを拡大したらどうかというご議論がありましたが、別の姉妹都市などの別の枠組みでやっているものをどうするかを含めて考えればいいと思います。その問題、それから新しくつくるのか、そこをよく考えたらいいということが一つです。

それから、種目を、合意ができるところからやっていく。ないしは、地域を八つに分散して開く。そのために、それぞれ種目を八つ選ぶのかどうか。この辺もそれぞれの事情があろうかと思えますし、参加団体・選手の事情などもあるかと思えますので、その辺はどういう論点があるのか。枠組み、種目、開催地域で検討すべきテーマを決めて、実務者レベルでしっかり詰めて、前に出していくと。やれるところをしっかりと具体化していくのが、一番効率がいいのではないかと思います。具体的な成果を挙げたいと思っています。ありがとうございます。

(山口) よろしいでしょうか。

基本的にスポーツなので、私は制約がかかってはいけないと思っています。本当にみんなが楽しめるような形で、できるところからやっていくことが可能な分野だと思いますし、きっといろいろないいことが起きてくるのだらうと思います。

ですから、今日のところは本当にいろいろなテーマについて、もっとざっくばらんに。例えば私は全羅の知事さんに聞きたいのですが、なぜあんなにゴルフの教室がうまくいって、あんなに強い選手をつくられているのかを、こそっと教えてほしいのですが(一同笑)。

(李) 8の県市道の皆さんが、海を抱えているという共通点があるので、海洋スポーツが中心にならざるを得ないという考えが基本的にあります。山口知事さんがおっしゃったのですが、学生のサッカーは海の問題とは関係ないのですが、いろいろ興味深いものがたくさんあるのではないかと、これから期待しているところです。

(山口) なるほど。ゴルフのことは教えてもらえないのですか(一同笑)。

そうしたら、それこそこれから協議する中で、済州さんにまた来年お伺いするというこ

とですが、マリンスポーツという意味では、先ほどもだいぶお話ししていただきましたが、
済州も可能性があると思っていいいでしょうか。ヨットなど。

(元) 今のところ、釜山と福岡のヨット大会の交流があるでしょう。ヨット大会も意味
はあるのですが、それはヨットを所有している人たちの競技になるところが大きいので、
われわれ8の県市道が集まって、新しいものをつくり上げる道に行くならば、既に可能性
のあるところから出発しないとイケない。最初から無理なものをするのは、これからの
持続性を考えると、難しくなる可能性があるということですね。

同じ努力を注いでいくものであれば、何らかの共通点があるのではないかと思います。
一つはこれからの未来を考えて、未来世代を中心に据えておくこと、それから、底辺を広
げることです。もしマリンスポーツで行くならば、いろいろなものがあるので、ヨットを
中心にすることもありますし、それは私の今の思い付き、アイデアですが、あるいはフィ
ッシング、ダイビング、いわゆるスキン・スキューバの大会ですね。それは大会というよ
りは、一緒に楽しむフェスティバル的な要素を入れて、同友会などが集まって、民間交流
を広げていくと。

もしサッカーを中心にするならば、プロサッカーや専門家よりは、住民たちがお互いに
楽しめるようなレベルのもの。トップレベルのものはあるのですが、それとは別に、生活
の底辺でそういうものを一緒に同時に進めていくこと。それから、エリートたちのトップ
レベルの選手たちのものより、生活レベル、同友会レベル、スポーツクラブのものを中心
にするのがいいのではないかと思います。

ですから、トップクラスを中心にしておくと、8の県市道が集まって何かをするのは少
し難しいところがあるのです。賞金や、どこから非常に優秀な選手が出るのかというこ
ともあるので、それをみんなが集まって楽しむのは、あまりにもエリート的なものなので。
もちろん青少年エリートは可能性があるのですが、これからのものですが、われわれ大人を中
心に考えれば、楽しむような、クラブやサークルなどの人たちが集まって、そういう底辺
の交流を広げることから始めるのがどうかと考えています。

より具体的なものはまだ考えが詰まっていないのですが、今後はそのような協議の場を
もっと広げて、ここに参加していたそれぞれの職員の方たちも、もちろんミーティングを
するのですが、実際にはクラブやサークルの当事者が集まって、そういう会議をする場を
設けるのも、一つの意味のあるアイデアではないかと考えています。

(山口) 中村知事、お願いします。

(中村) スポーツを通じた交流をさらに拡大していくという考え方には大賛成です。た
だ、どういう形でスタートするのかを考えたときに、私は先ほどご提案の中で申し上げた
のですが、できれば永続的に続けられるようなスキームをつくった方がいいのではないかと。

例えば青少年交流というと、一義的には行政が間に入ってさまざまな経費的な支援を行
うことによって、何年かは交流が続くかもしれませんが、さらに大きくいろいろな種目ま
で拡大していき、さらに広範な範囲で事業を展開するのはなかなか難しい面が出てくると

思います。立ち上がりのときには、行政がこれをしっかり支えていくことが必要だろうと思いますが、できれば将来的には、しっかりした民間のクラブやチームにバトンタッチできるような仕掛けを、しっかりつくって取り組んでいく必要があるのではないかと。そういう面を含めて、ぜひ実務者レベルでこれから具体的な協議を進めてはどうかと考えていますが、いかがでしょうか。

(村岡) スポーツの交流は、お互いを理解するのに大変重要なことだと思いますし、ぜひこれをこの関係の8県市道で進められたらいいなと思います。先ほど山口県の取り組みを紹介しましたが、例えば山口もそうですが、韓国もマラソンがはやっているわけですね。先ほど紹介した「下関海響マラソン」で言いますと、エントリーを開始すると、インターネットだと1時間ぐらいでいっぱいになってしまうということですし、外国からも来られて、韓国からも来られているということです。

これから日本も韓国も高齢化社会を迎えていき、いろいろな同じ事情があるのではないかと思います。そのような中でできるだけ多くの方がスポーツに参加することをそれぞれやられているのだと思うのです。それをもっとうまく連携してできたらいいのではないかなと思います。

既にそれぞれの民間レベルで始まっている大会で、韓国側からも日本側からもそれぞれ参加されているような大会で、ますます交流を深めるのを行政が少し後押しする仕組みなどを通じて、より交流が深まるようなことになっていくといいと思っています。

また、せっかく近い8県市道ですし、それぞれ海に面している。私はクルーズの話も素晴らしいと思いますし、ヨットの話もありましたが、山口県もある高校で非常にヨットに力を入れているところがあります。練習場もありますので、これがまた大人になってくると違うところに行って、なかなか山口にいないのですが、高校生などの段階ではそれぞれの地域で育てている選手がいて、交流ができればなおそれで競技力が増してくることになると思いますので、そういうトップレベルのもので交流ができる部分は、ぜひさせてもらいたいと思います。

それも今までやっている部分を、例えば2県でやっているものをもっと参加を広げていくなど、現実的に対応可能なものを考えていって、育てていくことが重要ではないかなと思いますので、まず実務レベルの話を踏まなければいけないのだろうと思いますが、本当にできることはすぐにでも始めていければと思っています。山口県としてもそれをぜひ進めていきたいと思っていますので、積極的に考えていきたいと思っています。

(山口) ありがとうございます。

今、マラソンのお話もありましたが、私も先ほど、桜マラソンで1万人のランナーが出て、海外が77名で韓国は10名といったときに、実は少ないなと思ったのです。これほど近いのに、もっとお互いが本当に楽しむマラソンで、出てきた韓国の10人はすごく喜んで、楽しんで帰られるので、できるところをもう少し広げていくことも可能ではないかと思いました。楽しむことが、本当にスポーツの素晴らしいところであると思うので、ぜひそのようなことも拡大を検討したいと思います。

(元) まず、マラソンに絞って申し上げますと、5年前まで私はマラソンランナーでした。今はあまりしないですが。フルマラソンは8回しました。韓国は国内だけで年間200回ほどのマラソン大会があります。濟州島だけでも、年間大体10回以上開催されていますね。そういう状況なので、韓国のマラソンランナーが日本のあちこちの地域に参加しているのですが、あちこちに分散して参加しているので、参加者数はそれほど多くないと見られるかもしれません。

ですから、マラソンの交流をもっと体系的にして、それを実務的に絞りますと、濟州島だけの例を挙げると、1回、2回のマラソン大会に数十人レベルを集めて送るのは、そう難しいものではありません。簡単に派遣できると思います。重要なのは、どこに集中するか、どこに力を合わせるのかということなのですね。

自治体だけでもさまざまなマラソン大会があるので、ある年には、ある地域の都市のマラソン大会に、8の県市道が全部そこに集中して参加しましょうなど、お互い相互扶助できるような感じでの、助け合いの交流ができるのではないかというアイデアも考えています。

(山口) マラソン大会は、8個、全部ありますか。

(中村) フルマラソンはないです。

(小川) 地域の中で、あるのではないですか。

(山口) 崔副知事のところはありますか。長崎はフルがないだけ。

(中村) フルがないだけです。

(山口) だから、何かしらあるわけですね。

(中村) 国境マラソンは、韓国からもよくおいでいただいてやっています。

(村岡) 山口は海響マラソンがあります。

(山口) 韓国から何人ぐらい。

(村岡) 韓国は80人、来られていますね。

(山口) 80人。

(村岡) はい。年々増えていると思いますが。全部で1万人ぐらい参加する中で80人ですが。

(山口) 私もそれこそ、桜マラソンは佐賀市がやっているの、市長と話をしなければいけません、皆さんのところから来ていただいたりすると、すごく盛り上がるかなと思ったりしますね。

(小川) 北九州市や福岡市がやっているマラソン大会がありますから、今、数字は持っていないんですが、海外の方がエントリーされていますから、相談しながら別枠をつくるのか。ただ、国内でも抽選で落とされていますからね(笑)。

(山口) 韓国側も人気がありますよね。釜山はありますか。

(徐) はい。数多くのマラソン大会が年中あります。釜山には、市役所だけではなくて、マスコミごとに全部あります。海に渡される長い橋が七つあり、その橋を誰が先占めするのかということで、マラソン大会をそこで開きたいということで、非常に大きな競争になっていて、市長として一つ頭の痛い部分でもあります。

(山口) これはきっと、まだあまり事務的に実務者で整理されていないので、どういう大会がどうあるのかということも含めて、実務者でよく調べて勉強してみれば、きっといろいろなことができるのだと思います。

それから、他にスポーツで交流ができそうなところは何かありますか。

(村岡) 自転車なども結構レースがはやっています。

(山口) 自転車。

(村岡) 韓国ははやっているのではないですか。自転車で結構よく、先ほど言った秋吉台などに乗りに来られる方が多いです。自転車のレースは韓国において、みんな人気があると聞いているのですが。

(李) 自転車ですね。自転車もちろん、この八つの中で全部あると思います。持続的にやるので、種目をあまり広げるのは少し難しいのではないかと思いますね。しばらくは差し当たっては圧縮して、何らかの集中的な種目になると思います。

マラソンは韓国だけでもいっぱいありまして、ものすごい数のマラソン大会があります。ちょっとゴルフのことをおっしゃったのですが、他のことに集中していて、あまり答えませんでした。韓国は日本とは違って、教育委員会の教育長が選挙によって選出されるので、自治体が教育に対して何か干渉はできないのです。教育委員会が高校に対して、いろいろな支援をしたり、奨学金を与えたりなどはしているのですが。

われわれの中に咸平(ハンピョン)というゴルフが非常に強い高校があり、私も今年、初めて訪問させていただいたのですが、今114人いて、半分がわれわれ全羅南道の出身で、半分は外から来た学生です。中国やロシアからの学生もいます。夏休みなども基本的にあります。朝から晩までゴルフばかり練習していますね。

われわれの考えは、人生を懸けて夢を追って、ゴルフに集中するのが一つの強いゴルフになるのではないかと思いますし、そういう歴史があるので、その伝統の上に立って、いろいろ教育をやっています。それから、その高校出身の有名な選手は、自分のゴルフで賞金をもらおうと、その部分の一定割合をいつも奨学金として高校に寄付するような伝統を持っています。ですから、資金的な援助もそこから永続的に可能であるということですね。

私が行った感じでは、施設が立派だとか、いろいろな物理的な環境が整っていたことよりは、周りの雰囲気、みんなゴルフをやらないとできないのだという、お互いの競争心が非常に強く、そこから育てられる優秀な選手が多いのではないかという感じです。

(山口) 今の李洛淵知事の話に関連してですが、今、日本ではもともとスポーツ教育は、教育委員会が専管的にやっていて、どちらかというと競技性もしっかりと育てるという体育の一環の中でやっていたのです。ところが、この数年は法律も変わって、教育委員会ではなくて、われわれ知事部局に移ってくるケースが非常に増えています。それは生涯スポーツの振興や、スポーツコミッションもそうですが、今はむしろ地域振興にスポーツを生かしていこうという流れの中で、むしろ、われわれ知事がそれに関与する度合いが非常に高まっています。

もちろん、そのいい面も悪い面もあるのですが、われわれとすると、それをうまく生かして県民スポーツ的にやっっていこう、そして、スポーツにみんなが参加するよという流れの中で、そういう意味では、うちはスポーツは局長が1人いて、観光と一緒にという感じで、これから文化・スポーツ・観光の関連が非常に増えて、それをやるのがコミッションという形ですが、その辺りは。スポーツは、今はまだ教育委員会ですか。

(李) 追加説明をしますと、アメリカ・大リーグのピッツバーグ・パイレーツの4番に姜正浩(カン・ジョンホ)という選手がいるのですが、われわれの高校の出身なのです。その高校は、自治体が補助やサポートをするのではなく、小さな金額ですが、教育委員会がそこをサポートしているということですね。

私は咸平ゴルフ高校に初めて行きまして、助けてくれという話はあったのですが、私はスポーツ会の会長も兼任していますので、スポーツ会の民間の奨学金として、それを活用する道しかないのではないかということですね。学校をどう支援するのもあくまでも教育委員会の仕事なので、自治体はそこに何も口を出したりお金を出したりできないのです。

(小川) 今、山口知事がおっしゃったように、日本は制度が変わってしまして、スポーツの振興は体育の延長というか、教育の延長というだけではなくて、障害者のスポーツもありますし、一生涯年齢に関係なくやるという生涯スポーツもあります。

それから、地域の振興など、いろいろな観点からスポーツをもう一度捉え直そうということで振興計画を各自治体で作ることになっていますが、多分最近は、それを知事部局や教育委員会と一緒にやるケースがものすごく多くなっているのだらうと思います。教育委員会だけでやっているところは少なくなっているのではないかという気がしています。

先ほど来思ったのですが、私の資料の29ページで、アジア太平洋こども会議という小学

生の子どもたちの交流を26年間続けてきているのですが、これまで8000人を超えるアジア・太平洋の子どもたちが日本に来ているのです。韓国からは、これまで400人弱の方が来られているわけですが、そこで運動会をやったのですね。

そういう意味では、今やっているいろいろな交流事業の中で、スポーツという観点、切り口を入れていくというのも、それぞれの8県でまとまってやるというだけではなくて、それぞれがそういう意識で、スポーツを今ある交流の中に入れていくのも、それぞれやればいいなと議論の中で思いました。

少し話が変わりますが、クルーズ船は面白いと思いますが、アジアの中で港湾を持っている釜山や福岡、長崎などの市が集まって、協議会をつくって、それぞれクルーズ船をどうやって誘致するかなど、今、既にやっていますので、その作業とわれわれがどういうタイアップができるかという観点で詰めていけばいいかなと思いました。

(山口) ありますか。

(村岡) そうですね。クルーズ船は今、多分、福岡は増えているのだと思いますが、山口県も回数がものすごく伸びてきています。ただ、港の大きさにある程度限界がありますので、どこまで受け入れられるかというのはあると思いますが、それぞれの地域でクルーズ船をもっと誘致すれば、今、活動すればするほどどんどん増えている状況なので、それぞれの地域がおもてなしというか、来られたお客さんを温かくお迎えする、その地域の素晴らしさ、港でいろいろなイベントをやるなどということもさまざまやってきています。

クルーズ船が来て、単に乗客が降りてきてお金を落としたというのではなくて、やはり地域の中でそれを盛り上げる活動も生まれてくる効果もありますので、その意味では今回の8県市道で連携してそういうものができれば、山口県としてもそれはぜひお願いしたいことだと思っています。今、非常にそういう熱が上がっている中でそういう枠組みができると、さらにそれが勢いを増すのではないかと思いますし、いろいろなポテンシャルを高めることにつながってくるのではないかと思います。これもどういうことができるのかを、少し実務レベルで話せばいいかなと思います。先ほど小川知事さんが言われたような、今ある協議会も活用しながら、そういう可能性を考えていけば面白いのではないかと思います。

(山口) ありがとうございます。

クルーズ船は、非常に将来性が高い分野だと思います。特にアメリカ・ヨーロッパ市場では、本当にカリブや地中海は非常に大きなロットになっていますが、まずは皆さん方がアジアに目を向けているという事実と、アジア人自体がまだクルーズ船の楽しみ方を知っていないということもあるので、方向性とすると、間違いなくこれから宝の分野だと思います。

これも本当に、それこそうちの4県で言うと、うちと山口県はまだ対応能力という、港湾自体の能力もまだまだあるわけですから、ここについて先をよく見据えていくことについては、われわれ8人で考えていきたいと思っています。

これは他のところもあるので、クルーズ船以外でありますか。特に自由に。

(徐) クルーズ船以外とおっしゃいましたが、それ以外ではなくて、もう少し話をしたいと思います。われわれの8カ所は、クルーズの商品を開発するなどということは、われわれだけで決定するものではなくて、ツアー会社、船を運営する会社もありますので、一緒にしないといけないのです。

しかし、そういう人たちは、今のところわれわれに対してよく知らないのですね。いいものは何があって、いい観光商品になるようなものは何があるのか、まずクルーズ会社や旅行会社が知らないのです。そのようなものができるようなことを、まずわれわれからアピールしていく、発信していくのが最初に重要です。

それ以外に、まずスポーツを通じて交流を拡大するというので、今いろいろな種目について話をしなければならないのですが、各地域が予算を持って支援できるようなシステムは、なるべく採択しない方がいいのではないかと思います。できれば、自発的にできるような。われわれは賞金を与えたり、もちろん賞金の規模は結構なものにならないといけないと思うのですが、アリランレースに、釜山市と福岡市などは財政的な支援は全くしていません。それは今、最小限の支援にとどめていますので、そういうもので長い間交流ができるような可能性がそこから持続可能性が生まれてくるものもあるので、われわれはそのようなものをよく選択して、交流を広げていくのがまず重要なポイントではないかと思います。

(山口) そうですね。

崔副知事は何かご意見はありますか。

(崔) 私は主に聞き役に回りたいと思います(一同笑)。

(山口) 今日はなかなか実務者からも、「予算の問題もあるから、あまり広げないでくれ」という話が(一同笑)。ただ、やはり今日は8人のリーダーがそろっているわけですから、ここで終わるわけでもなくて、この後明日までありますから、やはり本当にできるものをリーダーとして、みんなで考えていけばいいと思うのですね。いずれにしても、これからさまざまな永続的にやれるものについてずっと議論をしていくことについては、もう合意ができたのかなと思います。

(中村) すみません、ちょっとクルーズ船の件についてお話をさせていただきたいのです。確かに港湾の整備状況は、日本の4県ではそれぞれ違いがあると思うのですが、これから東アジアクルーズは間違いなく大きく発展していきたくらうと思っています。そういう環境をベースに、やはり世界に向けて発信することは非常に大事な時期に差し掛かっているのではないかと思います。

実は、長崎港にクルーズ船が入港しますが、お買い物は佐賀県に行っておられるのです。しっかりポーセリンパークでお土産を両手いっぱい買って帰っておられる。その意味からすると、波及効果はお互いに連動していくのだらうと思っていますので、船が直接港に入る、入らないということではなくて、どういう魅力的なものを提示できるか。これは8縣市道が力を合わせて取り組んでいける分野ではないかと思いますので、ぜひそういう思

いを共有しながら、どういう商品開発等を目指していくのか、具体的な行動に結び付けていく必要があるのではないかと考えています。

(山口) おっしゃるとおりでして、非常に佐賀県にも恩恵があるわけで、バスも今とても大変な状況で、船が着くと佐賀県のバスも長崎に行ったり、福岡に行ったりという大騒ぎな状況です。

(小川) 今の話で一つだけいいですか。クエンタム・オブ・ザ・シーズという16万7800トンの船が博多港に入り出したのですが、4900人のお客さんがいます。ある日、その4900人の船と、もう一つ、11万トンくらいの3000人ぐらいで、8000人ぐらいのお客さんが1日に博多港に来て、バスを220台出しました。九州各県からバスをかき集めてきたのですね。

そういう意味では、港だけではなくて、いろいろな波及効果がありますし、お買い物や食べ物、食事といろいろありますが、今は朝、着いて、日中はショッピングとお昼ご飯を食べて、夜はまた船に帰ってご飯を食べて、もう出航していくというスタイルで、今のクルーズ船のタイプはそうになっています。

だから、着いてどれだけ陸地を回ってもらい、時間をどれだけかけてもらえるか。今は半日なのですね。今のところ、情報発信するときに滞在時間との関係がありますね。将来的には、いろいろなタイプのクルーズ船のお客さんがいるから、そういう人たちに合わせたデスティネーションキャンペーンをやっていくことが大事ですし、魅力をどうやって九州各県や8県市道でつくり上げていくかは、これからの課題でして、もう少し時間がかかるかもしれませんが、大事な課題だと思います。

(山口) そうですね。クルーズは、ヨーロッパ人やアメリカ人が飛行機で来て、ここで韓国と日本をクルーズして回るコースが、これから必ずできてくると思うのです。そうしたときに、どのようなことがわれわれとしてプレゼンテーションできるのかは、しっかりやるべきことだと思います。

(李) クルーズを利用した中国人観光客の殺到などは、観光産業、バス産業などにも影響を与えているようです。日本はあまりよく分からないのですが、日本国民はバスよりは新幹線を利用した観光が増えていて、バスの利用者が少し減っている傾向にあったのではないかとと思うのですが、その代わりに中国人観光客が殺到して、バスの産業が活性化されているということです。

現在は現代自動車のバス生産量が非常に増えている傾向があります。でも、現代自動車はいろいろなストライキなどがかなり頻繁に行われているので、注文どおりに生産できないようなこともあるのですが、そういう中国人観光客のために、バス産業、自動車産業にも影響を及ぼすような事態が今、起きていることも聞いています。

(小川) バスのメーカーは増産しているのだと思います。

(山口) あまり時間をかけるなということなので(一同笑)。

でも、つついクルーズの話をするのとあと2時間くらいかかりそうなので、私はどうかなのと思ったのですが、いずれにしても、今回の知事会議が24回目です。やはりもっと人の行き来があってもと。われわれからすると、海峡の近くにいる皆さんの地域をもっとわれわれの地域が知るべきだし、もっとお互いの交流があってもいいのかなど。そういうところも含めて知った上で、コースも作って、ルートも設定するということが一番の基本だと思うので、やっていきたいと思います。

(小川) 一つだけいいですか。今の話でいきますと、去年は121万人の海外のお客さまが福岡県に来られています。そのうちの半数が韓国の方です。年々、韓国から来られている方は増えている状況です。

(山口) 南の皆さん方の地域からの方も多いですか。

(小川) その地域が韓国のどこかは、まだ分らないです。

(山口) やはりこれは中国との関係でもそうなのですが、もっとわれわれが行かないといけないと思います。基本的に今は非常にインバウンドが多いというのもあるのですが、われわれ自身もう少し関心を持って、お互いでどういう設定ができるのかについて議論をするという、もっと草の根のところをやっていきたいです。

(李) 小さい統計があるのですが、韓国の航空業界の発表によりますと、韓国人が一番多く行くところが、大阪です。その都市が、大阪だけではなくて、ますます多様化していきまして、日本全国に分散されています。それから、韓国の南だけではなくて、ソウルや釜山などの大都市の観光客が多く増えていくのではないかと思います。

(山口) そろそろまとめてもよろしいでしょうか。

いずれこれから、特にまずスポーツ関係については、永続的に続けられるような関係を構築していきたいと思います。それぞれの種目についても、条件等については実務者の方でよく議論してもらって、やれるところをしっかりとやっていくということについて、われわれ8人は、それをリーダーシップを持ってやっていくということだと思います。

そうしましたら、他の分野も多々あると思いますが、まだこの後も、今日は8人でいろいろな議論をさせていただきたいと思います。今日のここまでの、スポーツ関係を中心に8人でまとまってやっていくことについては、ご賛同いただけますでしょうか。大丈夫ですか。はい。では、よろしくお願ひしたいと思います。

そうしましたら、ここで全体会議の進行を終わらせていただきます。ありがとうございました。